

嵯峨宮頼り

第33号

嵯峨宮：群馬県みどり市大間々町小平 348 番地

<http://www17.plala.or.jp/sagagu/>

発行日：2024 年 1 月 10 日

発行：嵯峨宮世話人会



明けて
おめでと
う
いよいよ

令和六年は甲辰（きのえたつ）、出世・権力を求め成功・成就する年とか。富や財運、幸運が期待されるといふ。イケイケどんどんの年の様で、コロナで強いられ閉じ籠（こもり）り生活から開放させてくれるようだ。籠（こもり）という字（かご）とも読み、冠の竹が取れ龍が解き放たれたという事だろうか。

「嵯峨宮頼り」は嵯峨宮を通じての情報を地域の皆様に提供しています。バックナンバーは首記URLのホームページから見られます。神社境内の掲示板でも見られます。御相談は世話人会迄連絡下さい。

見えず泥沼化の様相を呈してきた。パレスチナではイスラエルが米国の威を借り、これでもかと言わんばかりの武力行使、ガザ地区住民は大量の死者を出す。ホロコーストや核兵器は問題だが、通常兵器なら幾ら殺しても構わないという論理でもあるのか。

中華圏の国々では龍は皇帝や王など権力者や力ある者の象徴である。武力・経済力だけでなく、孔孟思想など四千年の歴史に基づく優れた哲学が裏にある。世界第一の人口を有し世界第二の経済力を獲得した国が、昨今竹冠を外そうとしているように見え、地理的に近い日本としては心配である。

化石燃料による地球温暖化など地球規模の冠は沢山あるのだ。

初午はつうま 二月十二日

第六回埋蔵祈願式 十二月十七日 挙行

今年の埋蔵祈願式は晴天に恵まれたが少し寒い師走の祭りとなった。武者行列は小平の里ふれあいの館から出発した。受付と境内階段脇には、嵯峨宮には嵯峨菊が似合う、と世話役の奥さんが鉢植を飾ってくれた。小平の社会福祉協議会（蘭田一男会長）が地元の歴史を知って欲しいと、お年寄りを誘ってくれた。又市議会議員の方々や市内でミニコミ紙を発行の方々の歴史に基づく独特な祭りとい



願い事埋め成就を願う

嵯峨宮で埋蔵祈願式

「みどり」 願い事を書いた紙を地中に埋めて成就を願う「埋蔵祈願式」が17日、みどり市大間々町小平の嵯峨宮で開かれた。神社の世話人ら15人が、地域の言い伝えに倣って式を執り行った。写真。

の世話人が、神社の裏山に願いを込めた紙を奉納した。祈願式は世話人会が

2018年に復活させ、毎年開いている。総代の阿久津直司さん(73)は「地元伝統を後世に残していきたい」と意義を語った。(和泉皓也)



2023. 12. 18. 上毛新聞

う事で見に来てくれた。「少しですが」とお祝いを持ってきてくれた方もいた。前橋の小林さんが素晴らしい歌を寄せてくれた。一首
披露
小千の里を
守りて嵯峨宮の
埋蔵の日には
集う人々
て頂
今和五年十二月十七日
小泉美穂

裏山の木を伐採中で、山登りは土階段がきつかったが、皆無事に祈願することができた。

エリートツリー を植樹して五年

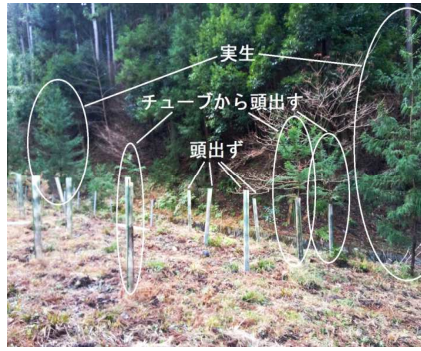
エリートツリー（ET）

とは各地の山で選抜された精英樹（第一世代）の中で、特に優れたものを交配した苗木の中から選ばれた、第二世代以降の精英樹のことである。成長が早く

伐る迄の期間が短く生産性が高い林業経営を助ける。最大の利点は成長が早ければ植付直後の下草刈り回数が減る事である。

山間の谷が豪雨で土砂が押し流された為砂防ダムが造られた。谷の周辺は保安林だが工事に必要な作業エリアは伐採された。重機を使って工事され無事ダムは完成、作業エリアはきれいに整地され完了した。保安林は伐られたまま数年が過ぎた。作業エリア内には何も生えていなかったが周辺には既に実生の杉が数本生えていた。大きさはETの苗とほぼ

同じだった。たまたま東毛林業研究会でETを試植する話が出た。あの作業エリアは保安林なので早く復旧させたい思いから提案し了承された。二〇一八年九月の植樹祭にて十六名で五十本植え、チューブで囲い食害対策とした。



五年後（二〇二三年十二月）

成長状況を確認する。①チューブから頭が出た苗24本（48%）、②頭が出ない苗19本（38%）③頭が出ず枯れた苗5本④チューブを倒され皮を剥かれ枯れた苗1本⑤チューブを倒され喰われた苗1本、であった。チューブを倒し喰

ったのは鹿と思われる。

ETは二年でチューブから頭を出すことが期待されるが一本も出ず、五年かかって半分、残りも出て来るモノは半分位しか期待できない。一方同時期に生えた実生の苗の方がはるかに成長している事が写真から分る。しかしその実生の杉の木も鹿に皮を剥かれて今にも枯れそうだったり曲がったり無残な様相を呈している。

ミニ林政懇談会で県の林業試験場の方に「ETなのに実生より育ちが遅い」と質問すると、「苗が成長する上で一番大事な事は根をしっかり張る事である」と。植樹した場所は砂防ダムを造る際、重機で均（なら）し石や砂利を敷き踏み固め整地された。その上を砂利や資材や生コンを積むダンプやトラック、コンクリートミキサー車が更に踏み付ける。植樹のため穴を掘るところぶし大の

石や砂利が多く、当然栄養分も少なく根を張るのは厳しい土壌だ。見かねて山からひと掴みの土をそつと穴に入れる者もいたが、大方はエリートだから大丈夫だろうという思い込みがあった。ET開発者は同じ土壌、同じ肥料、同じ環境下で成長の好いものを比較選別して作り出す。言葉だけ鵜呑みにして、環境条件は勝手に期待解釈し、結果が好くないとNGを出す、試植させて頂くという真摯な態度に欠けた結果と反省させられた。

研究や業績で地位や称号を得た方は「専門以外はタダの人」「センセイと呼ばれる程の馬鹿でなし」と自らを律する。又「氏より育ち」「孟母三遷の教え」は植付場所や方法等先ずは根を張らせる環境が苗木選択より大事と教えている。但し食害は林業には死活問題、厳しい対応も今は止む負えないだろう。

「材積見積」講習会実施 大間々林研

十二月二十日嵯峨宮所
有の山林で材積見積り講習会を行った。対象は大間々林研と小平生産森林組合の希望者で、講師は最長老の金子公一氏。林業経営効率化で山林を集約し一定規模以上ないと補助金が付かなくなると、小規模林家や山林保有者は山林管理が出来なくなり放置林が増えた。森林経営計画は業者にお任せとなり、伐採時期を迎えてもこれまで掛かった経費や固定資産税との帳尻を合わせることが難しい。高価な計測器を使わなくても従来の計量・算出方法を習得し、当たらずとも遠からずの材積見積ができれば積極的な算盤勘定も可能だ。先祖が守った森林、粗末に扱う事は出来ない。（阿直）

